

京田辺市学校教育審議会学校視察 審議会委員意見（とりまとめ）

① 新しい時代の学びについて (良かった点等について)	① 新しい時代の学びについて (課題等について)
<ul style="list-style-type: none"> ● 机や椅子の工夫、壁面のホワイトボード化など、協働的かつ対話のある学びを促進する取組がみられ、これが新しい時代の学びを支える重要な要素となっている。 ● デジタルとアナログ教材を組み合わせた柔軟な発想を引き出す授業が行われている。 ● 児童が自ら考え発言する授業がなされ、PC端末、大型モニター、全面ホワイトボードや広い作業スペースが効果的に活用されている。 ● 体育館のボルダリング設備、人工芝の運動場、工事の残土を再利用した中庭の小山などの学校設備も創意工夫がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育委員会主導の環境整備において、現場の教員の意見や要望をどのように取り入れるかが課題である。 ● 教員の教材研究の質と量が求められるとともに、教職員体制を見直す必要性がある。 ● 学習環境の整備には、早期に実現可能なものと改築や大規模改修等の機会がなければ実現できないものが考えられ、校舎の長寿命化計画等と整合した長期的な視点での計画が必要である。 ● 学習環境の整備とともに、児童生徒が自律的に学ぶためには情報活用能力や学習スキルの育成が不可欠であり、義務教育全体を見据えたカリキュラム作成が求められる。

③ その他、意見について (良かった点等について)	③ その他、意見について (課題等について)
<ul style="list-style-type: none"> ● 危機管理や安全面への配慮としてガードマンの配置、防犯カメラの設置や学年ごとの教室配置が挙げられる。 ● 教育目標や重点事項の策定において、学校の創意工夫や自立性が反映されている。裁量幅の拡大が教員の意欲や責任感を高め、教育活動の充実につながる好循環が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業形態において教員の力量が重要であり、授業準備には多くの時間が必要である。公立学校にそのまま適用できるかどうかには課題が残る。 ● 公立学校は教育委員会と市長部局との予算折衝や制約が多く、裁量的な側面が少ない。公正や透明性を確保するためには仕方ない面もあるが、可能な範囲で学校にも創意工夫や裁量が認められることを望まれる。 ● 地域社会との共存を図るために、教育効果を高めつつ地域活動にも寄与する校舎整備の検討が求められる。 ● ハードを効果的に活用するためには教員の育成プログラムが必要であり、現場の教員の意見を反映させたハード面の改善が求められる。 ● 学校は授業の場だけでなく、オフィスやコワーキングスペースのような快適な環境を提供することが求められており、良い取り組みの横展開をサポートする組織として機能すべきである。 ● 特色化はハードとソフトを結びつけた独自の学校運営スタイルとして重要であり、生徒や保護者を引き付けるだけでなく、教員や研究者が集まる魅力的な環境を作ることが求められる。

京田辺市学校教育審議会学校視察 審議会委員意見（とりまとめ）

②-1 児童生徒の多様化（特別支援教育等の児童生徒への対応）について (良かった点等について)	②-1 児童生徒の多様化（特別支援教育等の児童生徒への対応）について (課題等について)
<ul style="list-style-type: none"> 通常の学級に在籍する特別支援を必要とする児童生徒には、特性に応じた柔軟な対応が求められ、特別支援教室やクールダウン等が必要な場合に使用できる教育相談室的な小部屋の配置が望ましいが、附属小学校では可動壁の外側の教室がその役割を果たしているようである。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別な支援を要する児童生徒に対する体制が整備され、対応やノウハウが充実してきたものの、対象生徒の増加や多様性から依然として重要な教育課題である。

②-2 児童生徒の多様化（不登校の児童生徒への対応）について (良かった点等について)	②-2 児童生徒の多様化（不登校の児童生徒への対応）について (課題等について)
<ul style="list-style-type: none"> 田辺中学校の不登校の対応において、他の先生との連携があり、学校全体で不登校傾向にある生徒への配慮がなされていることが評価できる。 学校内に多様な選択肢が存在し、困っている児童や生徒を支援する環境が整っていることが良かった。 加配教員の配置が不登校傾向にある生徒への対応に大きなメリットをもたらしている。 通常のクラスとは異なる施設に配置されており、保護者の見学や相談が可能で、生徒が登校する際には通常クラスと一定の距離を保たれる等の配慮が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校を経験した児童生徒のケアは病院やカウンセリングで行われているが、学校に登校するには至らない段階の子どもたちの居場所が不足している。 心身に無理をかけずに学習や対人関係を体験するためには、清潔でパーソナルスペースが確保され、音や視線に配慮された環境が求められる。 保健室登校や空き教室での支援が多く、不規則登校の生徒が増えると学校としての対応が難しくなる。登校生徒が増えることによって、新たな集団が形成されることで不適応を起こす生徒が出る可能性もある。 不登校生徒への働きかけが効果を上げ、登校意欲が高まることが期待されているが、現状ではそのための非常勤講師や支援員の増員が求められる。